

令和2年度 第1回みんなで支える森林づくり南信州地域会議

開催日時 令和2年8月20日（木）13：30～15：00

開催場所 長野県飯田合同庁舎講堂

出席委員 飛矢崎委員（座長）、飯島委員、太田委員、佐々木委員、下平委員、中島委員、原委員、松下委員

事務局 丹羽地域振興局長、秋山林務課長、阿部林務係長、添田林産係長、塚平普及係長、保科主任森林経営専門技術員ほか5名

【会議事項】

(1) 森林税活用事業及び林務課の業務概要について

(飯島委員)

みんなで支える里山整備事業の間伐材を薪として利用したとのことだが、どれほどの量を供給したのか。

(事務局)

約88本の危険木を除去し、近隣の方に持ち帰っていただいた。

(2) 令和元年度森林税活用事業の実績等について

(松下委員)

事業の成果について追跡調査を実施しているのか。また、木製玩具の価格はどのように調査しているのか。併せて、他の地域振興局の事業費の執行状況について伺いたい。

(事務局)

事業実施後は、市町村や地元関係者、また学校林整備でいえばPTAの方など、当該事業の実施主体の方々を中心に、継続的な維持管理に努めていただいている。

木製玩具の価格については、事業実施主体において事業者から見積りを徴取するなどしている。適正な金額で購入されるよう、今後も県全体で取り組んでいく。

他の地域振興局の事業費執行状況について、資料掲載箇所を説明。

(原委員)

この数年、南信州における森林税活用事業の実績額が総体的に増加しているなかで、管内で最も人口が多い飯田市での活用実績が少ないことが目につく。森林税活用のメニューが組織内で十分伝わっていないのではないかと。地域にニーズはあるはずなので、県から働きかけをしてほしい。

また、森林税のPRについては、ホームページを作成し、活用実績を掲載するなどして広く情報発信していくべき。

(事務局)

森林税の活用実績と、事業実施主体たる市町村の人口規模などが極端にアンバランスであるような場合には、当該市町村の担当者へしっかり制度の説明をしていく。

また、PRの方法についてはご提案を踏まえ対応に努めていく。

(下平委員)

県全体の森林税の税収額はどれほどか伺う。

ところで、事業によっては、補助率がさらに上がると使い勝手がよくなるものもあると思われる。また、事業に参加したボランティアにも謝金が支払われるような仕組みを検討してほしい。

(事務局)

森林税の税収額は、令和元年度で6億9千万円であった。また、いただいたご提案についてはご意見としてお聴きし、今後の事務事業を進めてまいりたい。

(中島委員)

森林税活用事業のニーズは、どこで集約しているのか。また、先ほど触れられていたが、薪というのは自由に持ち出してよいものなのか。

(事務局)

多くの事業では市町村を通じて要望を伺っているところ。一方で、森林税活用事業のメニューや取組内容の広報にも努めており、地域振興局林務課へ直接、お問い合わせいただくこともある。引き続き、月刊誌等を活用したPRを積極的に進め、広く県民に森林税の活用について周知を図ってまいりたい。

薪は森林所有者の財産であるので、断りなく持ち出すことは認められないが、そうしたものも地域ぐるみで活用していくような工夫を考えることができればよい。

(3) 長野県森林づくり指針の計画期間の見直しについて

【資料中の「今後の方針」について了承】

(4) その他

(飯島委員)

森林税活用事業に様々なメニューがあることが分かった。いかにしてそれらを多くの県民に知ってもらい、また使ってもらおうかというのが工夫のしどころではないか。

(太田委員)

森林税がいろいろなところで用いられていることが分かったが、そうしたことが県民に十分知られているとはいえず、広報が課題となる。また、私自身の業務に関わりのある事業については今後、活用を検討していきたい。

(佐々木委員)

本日、多くの資料が配布されたが、会議資料については事前にいただければ目を通しておけるので、今後対応を検討いただきたい。

(下平委員)

天竜川鷺流峡復活プロジェクトの竹林伐採等、地域活動への支援に感謝。学校教育にもよい影響が出ているほか、メンマの生産も行われるようになった。そうしたものをさらに普及させ、六次産業化できればよい。

ところで、大平峠県民の森の現在の活用状況はどうなっているか。

(事務局)

今年度は新型コロナウイルスの関係で、6月中下旬頃から開放しているところ。なお、施設の老朽化が進んでおり、四阿の屋根の修繕を予定している。

(中島委員)

関係者のご苦勞はたいへんなことと思う。森林税を納めるばかりでなく、それがどのように使われているかを知ることの大切さを感じた。

(原委員)

広報に関し一言。県の地域発元気づくり支援金のように、たとえば「この伐採は森林税を活用して行われました」といったような施業箇所における広報活動を、当該事業の受益者の負担で行ってもらうようにしてはどうか。

(松下委員)

本日は「南信州地域振興局が森林税活用事業の予算をしっかりと使っている」ということが見て取れた。今後も予算の獲得に尽力いただきたい。

(飛矢崎座長)

森林はその所有者の大切な財産であると同時に、金銭には替え難い、県民皆の財産でもある。そうしたなか、県民皆で森林づくりを進めていこうというのが森林税の趣旨と受け止めている。そして、その活用実績については私自身、行政の立場としてPRに努めていかなければならないと感じているところであるし、各委員のご意見は、私にとっても大いに参考となるものであった。また、活用事業のメニューのひとつである「森林づくり推進支援金事業」は、アイデア次第でいろいろなことが出来るもの。こうしたものを上手に活用し、県民の皆さんに喜んでもらえるよう引き続き取り組んでいきたい。また、この会議で示された地域の声が、そうしたことに役立てられればよいと感じている。

(了)